

様式第二号の八(第八条の四の五関係)

(第1面)

産業廃棄物処理計画書

令和 5 年 6 月 30 日

長野県知事 阿部守一 様

提出者

住 所 長野県茅野市金沢4215番地4

氏 名 株式会社 常富興業

代表取締役 朝岡 賢一

電話番号 0266(72)0966

廃棄物の処理及び清掃に関する法律第12条第9項の規定に基づき、産業廃棄物の減量その他その処理に関する計画を作成したので、提出します。

事業場の名称	株式会社 常富興業	法人番号：5100001019149
事業場の所在地	長野県茅野市金沢4215番地4	
計画期間	令和5年4月1日～令和6年3月31日	

当該事業場において現に行っている事業に関する事項

①事業の種類	総合工事業
②事業の規模	元請完成工事高 31,700万円
③従業員数	12名
④産業廃棄物の一連の処理の工程	<ul style="list-style-type: none">・汚泥 処理業者へ委託→原料として再資源化・廃プラスチック 再生処理業者へ委託→原料として再資源化・金属くず 再生処理業者へ委託→原料として再資源化・紙くず 再生処理業者に委託→原料として再資源化・木くず 再生処理業者に委託→燃料材チップとして再資源化・がれき類 自社処理→再生砕石として再資源化自社処理→再生合材用骨材原料として再資源化

(日本工業規格 A列4番)

産業廃棄物の処理に係る管理体制に関する事項

(管理体制図)

本社(代表取締役社長)
↓
取締役(廃棄物処理統括責任者)
↓
開発事業部(廃棄物管理責任者)
↓
工事現場管理責任者(廃棄物処理責任者)

産業廃棄物の排出の抑制に関する事項

①現状	【前年度(令和4年度)実績】		
	産業廃棄物の種類	別紙1の通り	
	排出量	別紙1の通り t	t
	(これまでに実施した取組)		
廃棄物の種類ごとに分別を徹底して、再生利用が容易になるようにする。廃棄物が混合して埋め立て処分に回ることが無いようにしている。			
②計画	【目標】		
	産業廃棄物の種類	別紙1の通り	
	排出量	別紙1の通り t	t
	(今後実施する予定の取組)		
発生する廃棄物の全量リサイクルを目指し、種類ごとの分別を徹底して再生資源の有効利用を促進する。 舗装廃材の大部分は再生合材用骨材原料として再資源化を推進する。ARC 碎石の生産を一部再開して路盤碎石として活用する。			

産業廃棄物の分別に関する事項

①現状	(分別している産業廃棄物の種類及び分別に関する取組) がれき類、木くず、金属くず、廃プラスチック、紙くずについては、分別を徹底して保管・処理、委託処理を行い、それぞれの廃棄物が容易に再資源化できるよう取り組んでいる。
②計画	(今後分別する予定の産業廃棄物の種類及び分別に関する取組) 廃石綿等の特別管理産業廃棄物は廃掃法の規定に沿って届出を行い信用のある業者を選定し、適切に処理を行い速やかに処分完了の報告を行う。

自ら行う産業廃棄物の再生利用に関する事項

①現状	【前年度（令和4年度）実績】		
	産業廃棄物の種類	別紙1の通り	
	自ら再生利用を行った産業廃棄物の量	別紙1の通り t	t
	(これまでに実施した取組) コンクリート塊とアスコン塊に分別保管して、コンクリート塊は全量破碎処理して再生砕石として再利用する。アスファルト塊は小割をして所定の大きさに破碎し再生合材の骨材原料として合材プラントに出荷する。また、ARC砕石の生産を一部再開する。		
②計画	【目標】		
	産業廃棄物の種類	別紙1の通り	
	自ら再生利用を行う産業廃棄物の量	別紙1の通り t	t
	(今後実施する予定の取組) これまで通り全量を再生利用する。		

自ら行う産業廃棄物の中間処理に関する事項

①現状	【前年度（令和4年度）実績】		
	産業廃棄物の種類	別紙1の通り	
	自ら熱回収を行った産業廃棄物の量	t	t
	自ら中間処理により減量した産業廃棄物の量	別紙1の通り t	t
(これまでに実施した取組) 定期的に効率よく破碎処理を行っている。			
②計画	【目標】		
	産業廃棄物の種類	別紙1の通り	
	自ら熱回収を行う産業廃棄物の量	t	t
	自ら中間処理により減量する産業廃棄物の量	別紙1の通り t	t
(今後実施する予定の取組) 舗装殻は再生合材の骨材原料として再利用を図る。 コンクリート殻は受入状況により、100m ³ 程度を目安に短期で破碎処理を行う。			

自ら行う産業廃棄物の埋立処分又は海洋投入処分に関する事項

①現状	【前年度（令和4年度）実績】		
	産業廃棄物の種類	—————	
	自ら埋立処分又は海洋投入処分を行った産業廃棄物の量	—————	t
	(これまでに実施した取組)		
該当なし			
②計画	【目標】		
	産業廃棄物の種類	—————	
	自ら埋立処分又は海洋投入処分を行う産業廃棄物の量	—————	t
	(今後実施する予定の取組)		
該当なし			

産業廃棄物の処理の委託に関する事項

①現状	【前年度（令和4年度）実績】		
	産業廃棄物の種類	別紙1の通り	
	全処理委託量	別紙1の通り	t
	優良認定処理業者への処理委託量		t
	再生利用業者への処理委託量	別紙1の通り	t
	認定熱回収業者への処理委託量		t
	認定熱回収業者以外の熱回収を行う業者への処理委託量		t
	(これまでに実施した取組)		
	分別を徹底して、再生利用を容易にする。信用ある優良処理業者に委託する。		

②計画	【目標】		
	産業廃棄物の種類	別紙1の通り	
	全処理委託量	別紙1の通り	t
	優良認定処理業者への 処理委託量		t
	再生利用業者への 処理委託量	別紙1の通り	t
	認定熱回収業者への 処理委託量		t
	認定熱回収業者以外の 熱回収を行う業者への 処理委託量		t
	(今後実施する予定の取組)		
分別を徹底して、再生不可となる廃棄物を最低限に抑制し再利用の効率化を図る。			
※事務処理欄			

備考

- 1 前年度の産業廃棄物の発生量が1,000トン以上の事業場ごとに1枚作成すること。
- 2 当該年度の6月30日までに提出すること。
- 3 「当該事業場において現に行っている事業に関する事項」の欄は、以下に従って記入すること。
 - (1)①欄には、日本標準産業分類の区分を記入すること。
 - (2)②欄には、製造業の場合における製造品出荷額（前年度実績）、建設業の場合における元請完成工事高（前年度実績）、医療機関の場合における病床数（前年度末時点）等の業種に応じ事業規模が分かるような前年度の実績を記入すること。
 - (3)④欄には、当該事業場において生ずる産業廃棄物についての発生から最終処分が終了するまでの一連の処理の工程（当該処理を委託する場合は、委託の内容を含む。）を記入すること。
- 4 「自ら行う産業廃棄物の中間処理に関する事項」の欄には、産業廃棄物の種類ごとに、自ら中間処理を行うに際して熱回収を行った場合における熱回収を行った産業廃棄物の量と、自ら中間処理を行うことによって減量した量について、前年度の実績、目標及び取組を記入すること。
- 5 「産業廃棄物の処理の委託に関する事項」の欄には、産業廃棄物の種類ごとに、全処理委託量を記入するほか、その内数として、優良認定処理業者（廃棄物の処理及び清掃に関する法律施行令第6条の11第2号に該当する者）への処理委託量、処理業者への再生利用委託量、認定熱回収施設設置者（廃棄物の処理及び清掃に関する法律第15条の3の3第1項の認定を受けた者）である処理業者への焼却処理委託量及び認定熱回収施設設置者以外の熱回収を行っている処理業者への焼却処理委託量について、前年度実績、目標及び取組を記入すること。
- 6 それぞれの欄に記入すべき事項の全てを記入することができないときは、当該欄に「別紙のとおり」と記入し、当該欄に記入すべき内容を記入した別紙を添付すること。また、産業廃棄物の種類が3以上あるときは、前年度実績及び目標の欄に「別紙のとおり」と記入し、当該欄に記入すべき内容を記入した別紙を添付すること。また、それぞれの欄に記入すべき事項がないときは、「一」を記入すること。
- 7 ※欄は記入しないこと。

令和 5年度産業廃棄物処理計画書（産業廃棄物の実績及び計画の量）

単位：t

実績：前年度産業廃棄物排出量

計画：当年度産業廃棄物排出量の目標値

産業廃棄物の種類	総排出量		自ら再生利用を行った（行う）量		自ら行う中間処理				自ら埋立処分又は海洋投入処分を行った（行う）量		処理の委託										
					自ら熟回収を行った（行う）量		自ら中間処理により減量した（する）量				全処理委託量		優良認定処理業者への処理委託量		再生利用業者への処理委託量		認定熟回収業者への処理委託量		認定熟回収業者以外の熟回収を行う業者への処理委託量		
	自ら直接再生利用した量等を含めた事業場における産業廃棄物の合計量		自ら直接再生利用する量と自ら中間処理を行った後に再生利用する量				中間処理前の量から中間処理後の量を引いた量		自ら直接埋立・海洋投入処分する量と自ら中間処理した後に自ら埋立・海洋投入処分する量		自社内で処理を行わず直接委託した量と自ら中間処理した残さ量のうち処理業者に委託して処理する量		優良認定処理業者（廃棄物の処理及び清掃に関する法律施行令第6条の11第2号に該当する者）		中間処理後、有効利用されている場合の委託量（委託先から別の業者に売却等される場合を含む。）		認定熟回収施設設置者（廃棄物の処理及び清掃に関する法律第15条の3の3第1項の認定を受けた者）		認定熟回収施設設置者以外の熟回収を行っている処理業者への焼却処理委託量		
	①	②+⑧	⑤		⑦		③+⑨		⑩		⑪		⑫		⑬		⑭				
実績	計画	実績	計画	実績	計画	実績	計画	実績	計画	実績	計画	実績	計画	実績	計画	実績	計画	実績	計画		
1 燃え殻	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
2 汚泥	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
3 廃油	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
4 廃酸	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
5 廃アルカリ	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
6 廃プラスチック類	7.07	10.00	0	0	0	0	0	0	0	0	0	7.07	10.00	1.93	3.00	5.14	7.00	0	0	0	0
1 紙くず	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
2 木くず	115.94	150.00	0	0	0	0	0	0	0	0	0	115.94	150.00	0	0	115.94	150.00	0	0	0	0
3 繊維くず	6.10	8.00	0	0	0	0	0	0	0	0	0	6.10	8.00	0	0	0	0	0	0	0	0
4 動植物性残さ	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
5 ゴムくず	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
6 金属くず	2.60	4.00	0	0	0	0	0	0	0	0	0	2.60	4.00	0	0	2.60	4.00	0	0	0	0
7 ガラスくず・コンクリートくず及び陶磁器くず	8.22	10.00	0	0	0	0	0	0	0	0	0	8.22	10.00	0	0	0	0	0	0	0	0
8 鋳さい	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
9 がれき類	1,196.35	1,500.00	926.40	1,200.00	0	0	0	0	0	0	0	269.95	300.00	0	0	242.60	260.00	0	0	0	0
10 家畜ふん尿	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
11 家畜の死体	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
12 動物系固形不要物	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
13 ばいじん	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
14 処分するために処理したもの	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
混合	10.00	12.00	0	0	0	0	0	0	0	0	0	10.00	12.00	0	0	10.00	12.00	0	0	0	0
石綿含有廃棄物	14.00	20.00	0	0	0	0	0	0	0	0	0	14.00	20.00	0	0	0	0.00	0	0	0	0
蛍光管(水銀使用製品)	0.025	0.10	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0.025	0.10	0	0	0	0.00	0	0	0	0
合計	1,360.305	1,714.10	926.40	1,200.00	0	0	0	0	0	0	0	433.91	514.10	0	3	376.28	433.00	0	0	0	0

※ 総排出量＝自ら再生利用を行った（行う）量＋自ら中間処理により減量した（する）量＋自ら埋立処分又は海洋投入処分を行った（行う）量＋全処理委託量

【記載方法】

- ・各産業廃棄物の種類ごとに該当の箇所の左に前年度の実績（現状）を右に本年度の目標（計画）の産業廃棄物の量を記載してください。
- ・「産業廃棄物の処理の委託に関する事項」の欄には、産業廃棄物の種類ごとに、全処理委託量を記入し、右欄にそれぞれの内訳を記載してください。
- ・「自ら再生利用を行った（行う）量」の欄は、自ら直接再生利用した量と自ら中間処理した後再生利用した量を記載してください。
- ・「自ら埋立処分又は海洋投入処分を行った（行う）量」は、自ら直接埋立処分又は海洋投入処分した量と自ら中間処理した後自ら埋立処分又は海洋投入処分した量を記載してください。